

## B-7 光反射法による洗たくしわの評価

愛知教育大 日下部信幸 名古屋女大 の安田久仁子 奈良女大 古里孝吉

目的 光反射によるしわの測定方法および評価方法については先に報告した<sup>1)</sup>。本報は光反射法によって洗たくしわの測定を行ない、洗たく回数によるしわの変化、肉眼法や折り曲げ法との相関性について検討した。

方法 しわ評価は、得られた反射しわ曲線から、しわの凹凸度を表わすと考えられる変動率 CV%，平均偏差率，曲線長さ率  $L/L_0$ ，しわの数を表わすと考えられる  $\pm 3\sigma$  または  $\pm 2\sigma$  から外れる山および谷の数； $\pm 3\sigma$  値または  $\pm 2\sigma$  値，しわの平均的高さを表わすと考えられる  $H_m = \frac{1}{N} \cdot \frac{1}{n} \sum |x_{Mi} - x_{Mj}|$  を求めてしわの特性値とした。用いた試料は、モモスリン，アセテータフタ，麻シャツ地，ポリエステル・麻混シャツ地の P-P 加工処理前後の 2 種，綿ブロード，綿未晒ブロード，ポリエステル綿混ブロード，の 8 種類である。測定方法は A 法<sup>1)</sup>で，入射角  $70^\circ$  受光角  $70^\circ$  走査距離 17 cm 走査速度 8% である。洗たくは水道水のみで，家庭用電気洗たく機（うす巻式）で，5 分間行なった。

結果 1) 光反射法によって得られた反射しわ曲線から求めたしわの評価値は、いずれも肉眼法とかなり高い相関が得られた。

2) 洗たく回数とともにしわが増加するもの（モモスリン，アセテータフタ），減少するもの（麻シャツ地，綿未晒ブロード），変化の少ないもの（ポリエステル綿混）に分けられる。